研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-640		17-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol consumption and risk of uterine myoma: A systematic review and meta analysis.

アルコール消費と子宮筋腫発症リスク：システマティックレビューとメタアナリシス

執筆者

Chiaffarino F, Cipriani S, Ricci E, La Vecchia C, Chiantera V, Bulfoni A, Parazzini F

掲載誌

PLoS One. 2017 Nov 27;12(11):e0188355.　DOI: 10.1371/journal.pone.0188355.

キーワード	PMID
飲酒経験、子宮筋腫、システマティックレビュー、メタアナリシス	29176884

要　旨

目的：

飲酒が子宮筋腫発症の危険因子になり得るかを決定する目的で、システマティックレビューとメタアナリシスを行うこと。

方法：

2017 年 5 月までに公表された論文を対象に、MEDLINE/EMBASE を用いて論文調査を行った。採択基準は MOOSE および PRISMA ガイドラインに従うことに加えて 3 点あり、a）ケースコントロール研究あるいはコホート研究であること、b）アルコール消費と筋腫の関連を調査していること、c）筋腫の診断が、超音波や組織学的または臨床判断を基に行われていたものとした。アウトカムは、飲酒経験者と非飲酒者の子宮筋腫発症リスクの比較および現在飲酒者と非飲酒者の子宮筋腫発症リスクの比較とした。統計解析には、ランダム効果モデルを用い、オッズ比（OR）と 95%信頼区間（95%CI）を算出した。

結果：

5 つの論文がメタアナリシスの対象となった。飲酒経験者の、非飲酒者に対する、子宮筋腫発症の OR (95%CI) は、1.12 (0.94-1.34) と有意差を認めなかった。また現在飲酒者の、非飲酒者に対する、子宮筋腫発症リスクの比較は、2 つのコホート研究のメタアナリシスで行われ、OR (95%CI) は 1.33 (1.01-1.76) であり、有意差を認めた。

結論：

飲酒経験の有無は筋腫発症と関連を認めなかったが、現在飲酒者は、非飲酒者に対して、筋腫発症オッズ比が有意に高いことが明らかになった。